

青葉トンネル



阿寒摩周国立公園

青葉トンネルとは？

青葉トンネルというのは、一般的な道路にあるようなものではなく、頭上を覆うように生茂っている木の葉によって作られている自然のトンネルです。

もともとは鉄道軌道跡地だったのを地元の人々が硫黄山へのハイキングコースや交通のために利用したことから始まり、現在では硫黄山レストハウス裏から川湯温泉駅前までの約1.5kmのルートを、青葉トンネルと呼んでいます。

新緑の時期や夏には森林浴が楽しめますが、秋になると葉が色付き、紅葉を眺めながら歩くことができます。

青葉トンネルとつつじヶ原

青葉トンネルだけではなく、つつじヶ原を利用すれば川湯温泉駅前から硫黄山を経由し、川湯温泉街まで歩いて行くことが可能です。

つつじヶ原自然探勝路では硫黄の影響による植物の移り変わりを楽しめますが、硫黄山レストハウス裏から青葉トンネルへ行くと、また違う植生を見ることができます。イソツツジやハイマツが多くを占めているつつじヶ原に対して、青葉トンネルに入ると別世界のように多くの木々が茂り、足元には草花が生育しています。

青葉トンネルとつつじヶ原自然探勝路を合わせると4km程度になりますが、その間でも川湯の特殊な環境を実感することができるコースとなっています。

青葉トンネルと安田鉄道

青葉トンネルは硫黄山と歴史的に深い関係があります。明治10年に釧路の漁場持・佐野孫右衛門が硫黄の採掘を始め、明治20年に当時硫黄山の経営者にして安田財閥の始祖・安田善次郎が硫黄山から標茶へつなぐ安田鉄道を敷設しました。安田鉄道ができたことにより、弟子屈をはじめとし、釧路や標茶などの道東の産業が発達していきました。

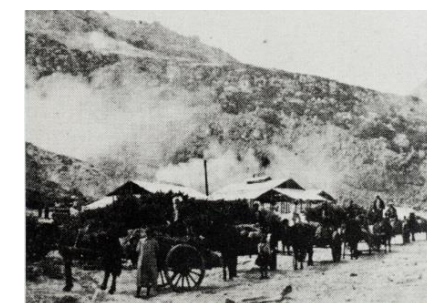
明治30年に事業廃業となりましたが、安田善次郎が作った鉄道は現在のJR釧路線標茶-弟子屈間の基盤となり、軌道跡が青葉トンネルとして残っています。



当時の安田鉄道

明治20年2月、山田銀行の支配人より硫黄山の経営を譲渡された安田善次郎は同年4月より安田鉄道の建設を始め、41.6kmの距離をたった7ヶ月で完成させました。道内では2番目にできた鉄道で、開発の進んでいない原始林で鉄道を作るというのは当時画期的な事業でした。

安田善次郎はアメリカから購入した蒸気機関車を進善号と長安号と名付け、硫黄山と標茶間を硫黄運搬用だけでなく旅客用としても走らせていました。現在の青葉トンネルではその名残を感じることができます。



この森で見られるお花や生きものたち

川湯エコミュージアムセンター



開館日/開館時間

4月～10月 8:00～17:00

11月～3月 9:00～16:00

休館日 毎週水曜日(7月第3週～8月31日は無休、水曜祝日の場合は翌日)・年末年始(12月29日～1月3日)

入館料 無料

088-3465

北海道川上郡弟子屈町川湯温泉 2-2-6

TEL 015-483-4100

FAX 015-483-4111

URL <http://www.kawayu-eco-museum.com>



カワユエンレイソウ
(5～6月)



ククルマバスウ
(5～7月)



クサノオウ(5～8月)



ギンリョウソウ
(6～8月)



オオバスノキ
(6～7月)



エゾシカ



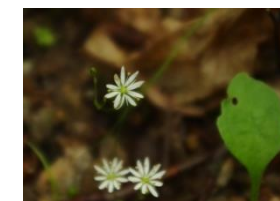
オオバナノエンレイソウ
(5～6月)



マイヅルソウ
(5～7月)



ゴゼンチバナ(6～7月)



ナガバツメクサ
(6～8月)



ハルニシ



キタキツネ



コンロンソウ(5～6月)



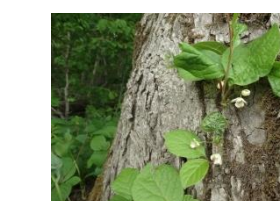
オオヤマフスマ
(5～7月)



カラマツソウ(6～8月)



シウリザクラ
(5～6月)



ミヤママタハピ



エゾリス